

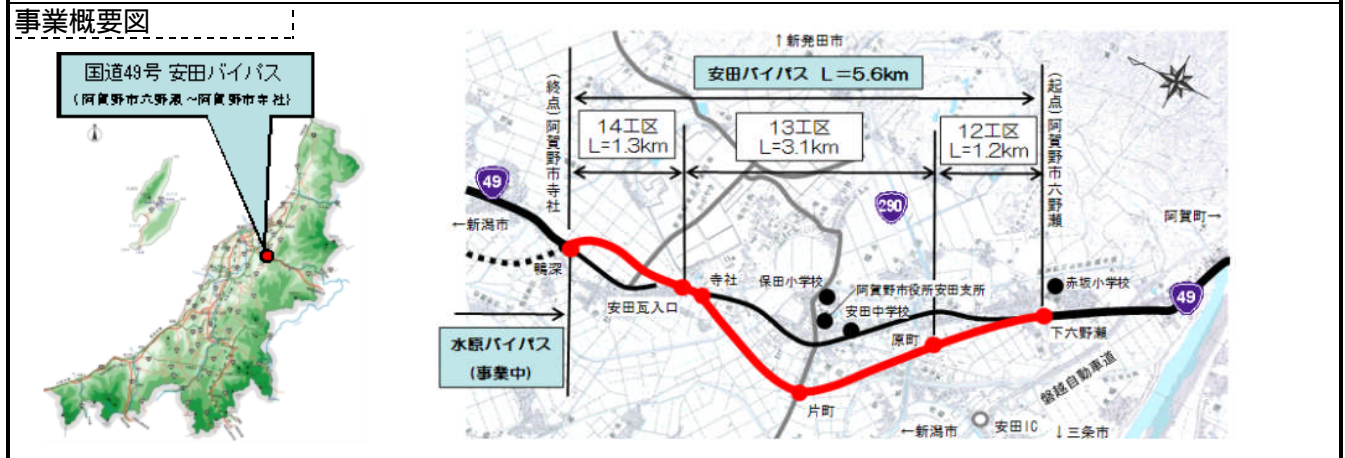
## 事後評価結果（平成23年度）

担 当 課：北陸地方整備局 道路部 道路計画課  
 担当課長名：鈴木 祥弘

<b>事業名</b>	一般国道49号 <small>やすだ</small> 安田バイパス	<b>事業区分</b>	一般国道	<b>事業主体</b>	国土交通省 北陸地方整備局	
<b>起終点</b>	自：新潟県阿賀野市六野瀬 至：新潟県阿賀野市寺社	<b>延長</b>	5.6 km			

**事業概要**  
 一般国道49号は、福島県いわき市から新潟市を結ぶ主要幹線道路であるとともに、阿賀野市、阿賀町と新潟市との交流を支える道路として重要な役割を果たしている。安田バイパスはそのうち阿賀野市六野瀬から同市寺社間の延長5.6kmについてバイパス整備を行う事業である。

**事業の目的・必要性**  
 一般国道49号安田バイパスは、「交通混雑の解消」、「交通騒音の低減」、「交通事故の削減」を目的とした事業である。



<b>事業の 効果等</b>	<b>事業期間</b>	事業化年度：S52年度 都市計画決定：S62年度 H10年度	用地着手：S54年度 工事着手：S56年度	供用年度(当初)：- / - (暫定/完成)：(実績) H18 / -	<b>変動</b>	倍
	<b>事業費</b>	計画時(名目値)：- / - 億円 暫定/完成(実績値)：- / - 億円	実績(名目値)：63 / - 億円 暫定/完成(実績値)：62 / - 億円		<b>変動</b>	倍
	<b>交通量</b> (当該路線)	計画時(暫定/完成)：- / - 台/日	実績(暫定/完成)：11,000 / - 台/日		<b>変動</b>	%
<b>旅行速度向上</b> (供用前現道 当該路線) / (供用直前年次) S60年度		37.1	47.2 km/h (供用後年次) H23年度	<b>交通事故減少</b> (供用前現道 供用後現道) / (供用直前年次) S50~53年平均		125 / 66 件/億台・日 (供用後年次) H19~21年平均
<b>費用対効果分析結果(当初)</b>		B / C : -	総費用：- 億円 (事業費：- 億円 維持管理費：- 億円)	総便益：- 億円 (走行時間短縮便益：- 億円 走行経費減少便益：- 億円 交通事故減少便益：- 億円)	基準年	- 年
<b>費用対効果分析結果(事後)</b>		B / C : 3.0	総費用：168 億円 (事業費：147 億円 維持管理費：21 億円)	総便益：502 億円 (走行時間短縮便益：445 億円 走行経費減少便益：46 億円 交通事故減少便益：11 億円)	基準年	平成23年
<b>事業遅延によるコスト増</b>		費用増加額：- 億円		便益減少額：- 億円		
<b>事業遅延の理由</b> -						
<b>客観的評価指標に対応する事後評価項目</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活力</li> <li>(1) 円滑なモビリティの確保                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 費用便益算定エリアの年間渋滞損失時間の削減量 = 54万人時間/年 (整備前1,628万人・時間/年 整備後1,574万人・時間/年)</li> </ul> </li> </ul>						

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該事業区間および現道を走行する保田線や阿賀野市市営バス等24本/日の路線バスの利便性の向上 (事業区間および現道を走行する路線バスの利用者数：約8万人/年)</li> </ul> <p>(2) 物流の効率化支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際拠点港湾である新潟港へのアクセス向上</li> <li>・農林水産業を主体とする地域における農林水産品の流通の利便性向上 旧安田町は新潟県酪農発祥の地で酪農が盛んであり、特産品販売所がある。</li> <li>・現道等における総重量25tの車両が通行できない区間を解消する 火の詰橋：昭和44年架橋(架橋から42年経過)、橋長45.0m、幅員10.0m、設計荷重20t</li> </ul> <p>(3) 国土・地域ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常活動圏の中心である阿賀野市市街地部、新潟市へのアクセス向上</li> </ul> <p>(4) 個性ある地域の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点開発プロジェクトである新潟県東部産業団地、赤坂工業団地へのアクセス向上</li> <li>・安田地区アミューズメントパークへのアクセス向上</li> <li>・暮らし</li> </ul> <p>(1) 安全で安心できるくらしの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新潟市民病院(三次医療施設)へのアクセス向上</li> <li>・安全</li> </ul> <p>(1) 安全な生活環境の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現道等における交通量の減少により安全性向上 現道部交通量 整備前6,452台/12h 整備後1,766台/12h</li> </ul> <p>(2) 災害への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1次緊急輸送道路として位置づけあり。</li> </ul>
	<p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>特になし</p>
事業による環境変化	<p>環境影響評価に対応する項目</p> <p>特になし</p>
	<p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>特になし</p>
	<p>事業評価監視委員会の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の事後評価及び改善措置、調査・計画のあり方、事業評価手法の見直しの必要なし。</li> </ul>
	<p>事業を巡る社会経済情勢等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旧安田町は平成16年4月、旧水原町、旧京ヶ瀬村、旧笹神村と合併し、阿賀野市となった。</li> </ul>
	<p>今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安田バイパスは、阿賀野市安田市街地部の交通をバイパス部分へ分散させることで、地域の円滑な交通、交通安全性の確保だけでなく、阿賀野市のまちづくり支援など様々な役割を果たしている。</li> <li>・交通量、旅行速度及び交通事故の実績などから、事業の目的である「交通混雑の解消、交通騒音の低減、交通事故の削減等により生活環境改善」は図られており、今後の事後評価及び当面の改善措置の必要性はない。</li> </ul>
	<p>計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安田バイパスは、生活環境改善を目的に計画された事業であるが、事業化が昭和52年(本年で35年経過)と古く、昭和56年度の工事着手以降、区間毎に段階供用してきたが、現道部の騒音・振動などの沿道環境に関する指標が存在しなかったため、今後、他の事業においても可能な限り目的にあった指標を調査し、蓄積していくことが必要である。</li> <li>・その他、客観的な評価指標により事業の効果を確認できており、特段の見直しの必要はない。</li> </ul>
	<p>特記事項</p> <p>特になし</p>

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。